



2019年度
浜松の未来を育てる会
報告書

2019年4月1日～2020年3月31日

目次

- 1) 事業成果
- 2) 浜松市委託子育て支援ひろば
基本事業
 - ・ 中区ここみ広場
 - ・ 南区ここみのうち
 - ・ 浜北区ここみの森
加算事業
 - ・ 妊婦支援
 - ・ 親支援・孫育支援
 - ・ 外国人支援・長期休暇支援
- 3) 他団体との協働・ボランティア
- 4) ここみドゥーラ
- 5) ここみ学びLabo
 - ・ 講演会
 - ・ 人材育成・養成講座
 - ・ 講師派遣

1) 事業成果



【妊娠中】 子育て支援ひろば (妊婦支援など)

- 助産師による妊娠・出産・産後・子育てに関する情報提供、個別相談
- ここみドゥーラによる産後の暮らしについての情報提供、子育て支援制度の活用相談
- 来場親子との交流
- 妊婦仲間づくり
- 赤ちゃんを迎える心構えや準備のサポート
- 夫婦のパートナーシップを考える機会



【妊娠中～産後】 訪問型産前産後サポート ここみドゥーラ

- 家事、育児支援
- 育児相談
- 子育ての伴走者としての寄り添い
- 地域の子育て資源の情報提供
- 赤ちゃんとのおでかけ支援（ここみの子育て支援ひろばとの連携）
- ※ここみドゥーラははますくヘルパーとしても活動



【産後2ヵ月くらい～】 子育て支援ひろば

- 子育てを見てまねる場
- 身近な相談相手(スタッフ)
- 専門家による発達相談、子育て相談
- 来場のきっかけ・仲間づくりのための産後おしゃべり・パパおしゃべり
- 親育ちを支える親支援講座（乳幼児の発達、おもちゃと学び、だっことおんぶ、復職準備など）
- 夫婦のパートナーシップを考える機会

2019年度、会設立から12年を迎えた。

前年に引き続き妊娠中から産後までの切れ目ない支援を目指し活動をおこなった。（上図）変化しつづける社会の中で、今を生きる親子のニーズをしっかりとキャッチし、必要な事業を展開するため、多方面で活躍中の講師の方々となつた。

県外から講師を招いて子育て支援に関するさまざまな内容の研修会を開催でき、行政職員、市議会議員、大学職員、子育て支援に関わる専門職、子育ての当事者などさまざまな方の参加につながった。

研修会で学んだことや新しくできたつながりを活かし、子育て中の親子や地域の方々に日常的に還元できるような子育て講座や孫育講座をスタートさせた。

会の主軸である3つの事業も、さらに発展していった。

3つの事業

- ①みんなで子育てプロジェクト（浜松市委託子育て支援ひろば事業）
- ②産前産後つながるプロジェクト（ここみドゥーラ・浜松市はますくヘルパー事業）
- ③学び場プロジェクト（ここみ学びLabo・産前産後親子のための講座・講師派遣など）

①の浜松市委託子育て支援ひろば事業は、2018年度から新たに南区「ここみのうち」、10月には浜北区「ここみの森」を受託し、中区「ここみ広場」は継続して受託したため、現在3箇所の子育て支援ひろばを運営している。2019年度はこの体制で2年目となった。

南区「ここみのうち」は地域の回覧板でも広く周知され、多くの親子が訪れている。また、浜北区の「ここみの森」は、2018度は10月からスタートしたため半期のみであったが、2019年度は全期となり、徐々に周知され、地元の親子で賑わっている。

中区「ここみ広場」も、転勤族の多いまちなかの広場として定着している。

ひろばの数が増えたため、スタッフの養成・増員を行い、臨時スタッフも含め29名のスタッフが従事した。

1) 事業成果

②のここみドゥーラ事業は、浜松市のはますくヘルパー事業として3年目となった。
ここみドゥーラが訪問した家庭が、子育て支援ひろばを訪れることも増え、産前産後のつながりができている。

③のここみ学びLabo事業は、子育て環境コンサル事業から改名し、より幅広く、子育てに関するさまざまな「学び」を総合的に扱う部門とした。

2019年度はさまざまな講師を県内外からお招きし研修会を行い、充実した年となった。
研修会には、新聞社の取材も入り、記事に大きく取り上げられ、子育て支援の現状を広く知ってもらうきっかけとなった。

人材育成講座では、参加者がより主体的に学べるよう講座内容を見直した。



ここでみんなで育ちあい

2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 基本事業

ここみ広場

基本情報

対象	妊婦、0～概ね3歳未満の乳幼児と保護者、家族		
実施場所	浜松市中区常盤町140-8		
開催日時	常設ひろば 月～金（月1土）9：30～15：00（週5日・5時間/日） 昼休憩12:00～12:30 出張ひろば（会場：浜松市青少年の家） 毎週 火 9：00～14：00（年間40回・5時間/日）		
年間開催日	常設ひろば 218日※1（前年238日）	出張ひろば 40日（前年40日）	
年間登録児数	常設ひろば 332人（前年354人）	出張ひろば 104人（前年106人）	
年間利用者数（延べ）	常設ひろば 4,480人（前年4,765人）	出張ひろば 978人（前年1010人）	
一日あたり利用者数	常設ひろば 20.5人（前年20.0人）	出張ひろば 24.4人（前年25.2人）	
加算事業	発達支援・妊婦支援・親支援・孫育支援・外国人支援・長期休暇支援		

※1新型コロナウイルスの影響で、3月一部休館

ここみ広場の特徴

ここみ広場は、浜松市の中心市街地に位置し、近くには浜松駅、遠州鉄道、市役所や商業施設など主要な施設が多くある。浜松駅周辺は利便性がよく、他県からの転入者も多く、ここみ広場の利用者は転勤族の家庭が多いことが特徴。中区には浜松市委託の子育て支援ひろばは6箇所。その中で一番中心市街地に近い場所にあるのがここみ広場である。

利用者親子の子どもの月齢内訳を見ると（図1）、圧倒的に0歳と1歳の月齢の低い親子の利用が多い。主に利用する0,1,2歳児親子の1日の平均利用組数はおおよそ10組。特に0歳のねんねの赤ちゃんが気軽に安心して行ける施設として、定着してきており、助産師や保健師からの紹介で来場する親子も多い。

相談件数は年間500件。身近な相談場所として親子の生活を支えている。
また、妊娠期からの妊婦とその家族の利用者は延べ41組。（別項P8参照）

来所方法（図2）は、徒歩での来場が多く、まちなかに住む親子の居場所となっている。
また、遠州鉄道の駅が徒歩3分と、電車の利用も便利のため、沿線沿いの親子の来場があるのが特徴。
利用者の居住区別比率は中区88%となっている。



図1 年齢別利用児

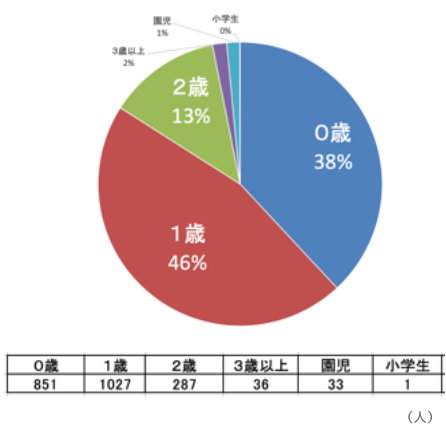


図2 主な来所方法

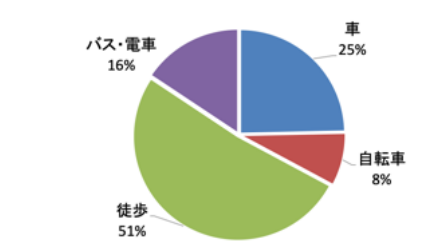
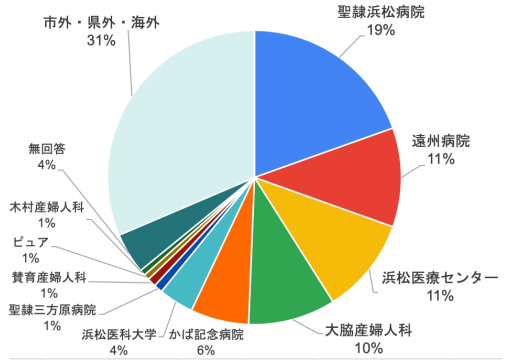


図3 利用者の出産医院



2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 基本事業

ここみのおうち

基本情報

対象	妊婦、0～概ね3歳未満の乳幼児と保護者、家族		
実施場所	浜松市南区瓜内町148-D（すこやか助産院内）		
開催日時	常設ひろば 月～金（月1土）9：30～14：30（週5日・5時間/日） 出張ひろば（会場：ユーコープさんじの店内コミュニティースペース） 毎週水 9：00～14：00（年間40回・5時間/日）		
年間開催日	常設ひろば	219日※1（前年238日）	出張ひろば 40日（前年40日）
年間登録児数	常設ひろば	308人（前年370人）	出張ひろば 86人（前年79人）
年間利用者数（延べ）	常設ひろば	6,197人（前年5319人）	出張ひろば 667人（前年550人）
一日あたり利用者数	常設ひろば	28.3人（前年22.3人）	出張ひろば 16.7人（前年13.8人）
加算事業	発達支援・妊婦支援・親支援・孫育支援・外国人支援・長期休暇支援		

※1新型コロナウイルスの影響で、3月一部休館

ここみのおうちの特徴

ここみのおうちは、浜松駅南より車で5分程度のところにある。すこやか助産院の建物を借りて平日と月1回の土曜日の日中は子育て支援ひろばを開催している。昼時も通しで開催しランチタイムを設けているため、お弁当などを持参して親子で食べることができる。

南区の浜松市委託の子育て支援ひろばは3箇所。

利用者親子の子どもの月齢内訳を見ると（図1）、圧倒的に0歳と1歳の月齢の低い親子の利用が多い。主に利用する0,1,2歳児親子の、1日の平均利用組数はおおよそ13組。特に0歳のねんねの赤ちゃんが気軽に安心して行ける施設として、定着してきており、特に赤ちゃん訪問時の助産師からの紹介で来場する親子が多い。

また多胎児（双子）の利用も多く、常設ひろばと出張ひろばの合計で、延べ60組の来場があった。2017年度から2019年度までの累計では223組。

相談件数は年間561件。身近な相談場所として親子の生活を支えている。

また、妊娠期からの妊婦とその家族の利用者は延べ18組。（別項P8参照）

来所方法（図2）は、駐車場があるため車での来場が多く、双子や兄弟連れなど、車利用が必要な親子の居場所となっている。利用者の居住区別比率は南区66%、中区28%となっており、この2区からの来場が90%を超えている。

図1 年齢別利用児

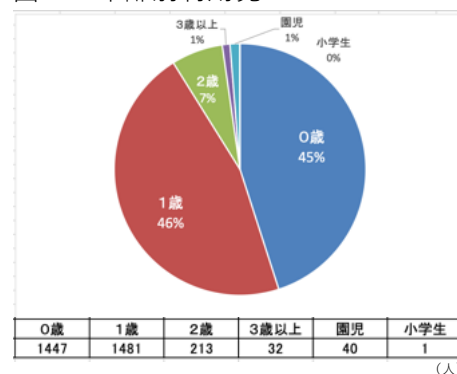


図2 主な来所方法

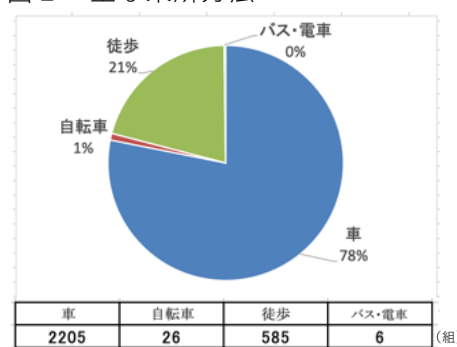
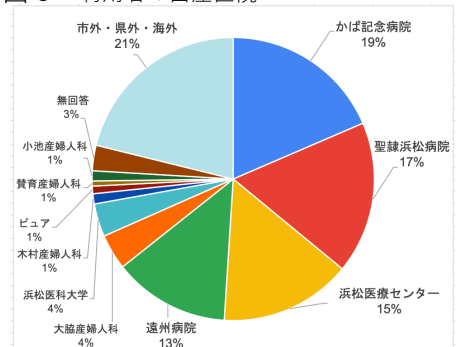


図3 利用者の出産医院



2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 基本事業

ここみの森

基本情報

対象	妊婦、0～概ね3歳未満の乳幼児と保護者、家族	
実施場所	浜松市浜北区中瀬4486-1 中瀬南部緑地会館内	
開催日時	常設ひろば 月～金（月1土）9：30～15：00（週5日・5時間/日） 昼休憩12:00～12:30 出張ひろば（会場：内野台コミュニティ会館） 毎週月 9：00～14：30（年間40回・5時間/日） 昼休憩12:00～12:30	
年間開催日	常設ひろば 173日※1（前年94日）※2	出張ひろば 40日（前年20日）
年間登録児数	常設ひろば 387人（前年226人）	出張ひろば 87人（前年62人）
年間利用者数（延べ）	常設ひろば 4,473人（前年1,824人）	出張ひろば 846人（前年443人）
一日あたり利用者数	常設ひろば 25.9人（前年19.4人）	出張ひろば 21.2人（前年22.2人）
加算事業	発達支援・妊婦支援・親支援・孫育支援・外国人支援・長期休暇支援	

※1 新型コロナウイルスの影響で、3月一部休館
 ※2 前年度は10月～3月の半期開催

ここみの森の特徴

ここみの森は、浜松市浜北区に位置する中瀬南部緑地公園内の会館で開催している。市内では唯一の公園併設のひろば。浜北区には浜松市委託の子育て支援ひろばは3箇所。

利用者親子の子どもの月齢内訳を見ると（図1）0歳と1歳の月齢の低い親子の利用が多い。また、兄弟連れも多いのが特徴。学校の長期休暇時期には、小学生の利用もある。小学生は小学生ボランティアとして0歳～幼稚園児の子どもたちを見守ってくれる子もあり、年の離れた子同士の交流が盛んである。

主に利用する0,1,2歳児親子の、1日の平均利用組数はおおよそ11組。

特に午後の時間帯は、0歳のねんねの赤ちゃんが気軽に安心して行ける施設として、定着してきており、助産師や保健師からの紹介で来場する親子も多い。

相談件数は年間567件。身近な相談場所として親子の生活を支えている。

また、妊娠期からの妊婦とその家族の利用者は延べ12組。（別項P8参照）

来所方法（図2）は、広い公園の駐車場があることと利便性の関係から、車での来場がほとんどである。利用者の居住区別比率は浜北区82%となっている。

図1 年齢別利用児

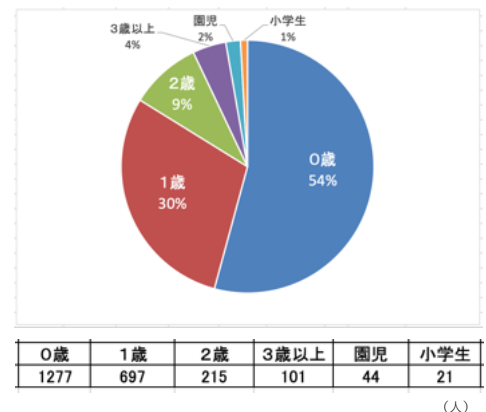


図2 主な来所方法

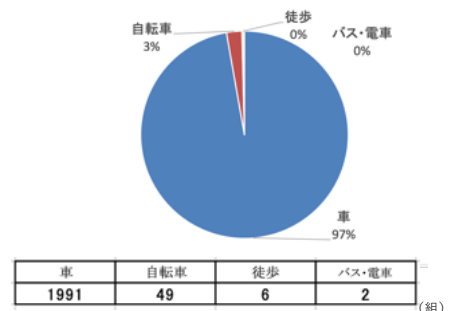
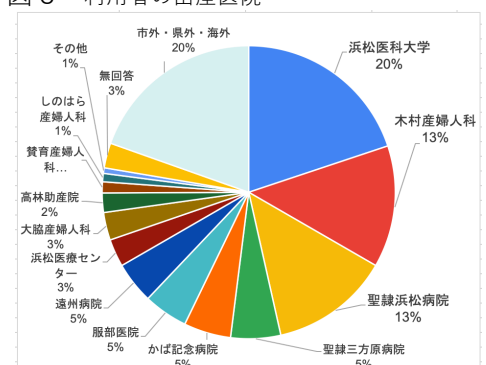


図3 利用者の出産医院



2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 加算事業

【妊婦支援】

ひろば名	2018年度 妊婦のひろば参加延べ 人数（妊婦支援日） （人）	2019年度 妊婦のひろば参加延べ 人数（妊婦支援日） （人）	2019年度 浜松市子育て支援 ひろば全体の妊婦 延べ参加人（人）	全体に対す る割合	3つのひろば での割合
ここみ広場	58(49)	41(37)	243	16.9%	29.2%
ここみのうち	19(13)	18(15)		7.4%	
ここみの森	6(3)※	12(8)		4.9%	

※ここみの森2018年度は2018年10月～翌3月までの半期開催

妊婦とその家族のひろばへの来場はここ数年若干の減少はあるもののほぼ横ばいとなっている。

（2019年度は新型コロナウイルス感染症の影響で3月は休館）

妊婦とその家族が子育て支援ひろばの存在を知り、積極的に利用してもらえるようにするには、産科との連携が欠かせない。

毎年どの産院で出産したかをアンケートで統計を取り、産院へひろばの月カレンダーやパンフレットを配布しているが、今後さらに産院でのひろば案内を強化していく必要がある。

そのためには、産院の助産師に地域の子育て支援ひろばとそこで行われる妊婦支援のこと、利用者の声などを知ってもらい、通院する妊婦にひろばを紹介してもらえるようなツールを作成していく。

この流れができると、退院後自宅に帰り、地域での子育てが始まる親子にとって大きな助けとなり、産前から産後の切れ目のない支援となる。



助産師による妊婦支援の日の様子
模型を使って出産のイメージを伝えている

妊婦支援利用者の声



妊婦とその夫が、先輩ママの赤ちゃんを抱っこ体験中
普段の生活で、出産前に新生児に会う機会はほとんどない

バースプランや産後うつのことなど、先輩ママさんからの体験談がいろいろ聞けてよかった。

お産のことがいろいろ知れて良かったです。産後また来ます！

出産に前向きになりました！

助産師さんから具体的な話が聞け、何を準備したらいいか、どのように対処したらいいかわかりました。

ベビー用品を揃える前に相談に来られてよかった。

出産後の赤ちゃんに慣れるためにもまた来たいです。

自分が不安だったことが聞けて良かったです。
いろんなサービスや道具を使っていきたいです。



2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 加算事業

【親支援・孫育支援】

今の親子や異世代が個々に抱える課題や社会的課題に沿った内容の講座を、いろいろな角度から豊富に企画。他にはない特徴ある講座をピックアップ。

『パパのおしゃべり会』

子育て中の現役パパがファシリテーターを勤め、パパのパパによるパパのためのおしゃべり会。
パパ同士で本音トークができる貴重な講座。
ざっくばらんな雰囲気の中、普段なかなか出会えない同年代の他のパパたちとパパ目線の話ができる。

Data 4回開催 土曜日 参加人数：父17/母20/子27/他3/延べ67人



『多胎児おしゃべり会』

双子や三つ子を育てた母親が運営する団体「しずおか多胎ネット」と協働した、実体験に基づいたおしゃべり会。
多胎育児の生の声が聞け、多胎を育てる親同士がこれからの子育ての見通しを立てやすくなる。
単胎の親子も参加し、多様な育児があることを知る場ともなっている。

Data 5回開催 平日 参加人数：父4/母24/子46/妊婦1/他1/延べ76人



『復職準備講座』

育休後アドバイザーによる復職準備のための講座。
働くパパママの不安や復帰後に始まる生活の実際を共有し、夫婦でよく話し合うことの大切さから、どんな家事育児サポートサービスがあるのかまで学べる。

Data 3回開催 土曜日 参加人数：父14/母19/子22/延べ55人



『赤ちゃんとの暮らしを豊かに』シリーズ

- ①成長と発達 ②おもちゃとあそび
- ③抱っことおんぶ ④はじめての歯みがき

赤ちゃんとの暮らしがより豊かになり、親子でともに楽しく成長していける“今日からはじめられる”をモットーに展開する講座。
どの回も参加親子の個々の悩みを拾い上げながら、皆とも共有することで、“誰しもある悩み”と共感が生まれ、子育てなかまの輪が広がる。

Data 16回開催 土曜日 参加人数：父64/母134/子154/他7/延べ359人



『日本の文化 背守り刺繍』

昔から子どもの魔除けとして着物に縫われてきた「背守り刺繍」健やかに育つことを願って一針一針思いを込めて、ちくちくと針仕事をしながら、子育て、孫育ての話しが盛り上がる。
伝統文化を通して、子を想う気持ちはいつの時代も変わらないことを感じる一方で、時代とともに変化している今の子育てのことについても理解を深める場となっている。

Data 4回開催 平日 参加人数：祖父母4/親13/子15/他7/延べ39人



2) 浜松市委託子育て支援ひろば事業 加算事業

【外国人支援】

3つの各ひろばに、通訳が月2回・年間24回訪れ、ひろばを利用する外国人親子の支援を行った。

通訳の配置と実績

中区ここみ広場：中国語

外国籍の保護者延べ49名 子延べ50名 国籍内訳：中国・台湾・韓国

南区ここみのおうち：英語・タガログ語と中国語（隔月で配置）

外国籍の保護者延べ2名 子延べ2名 国籍内訳：韓国・中国

浜北区ここみの森：英語・タガログ語

外国籍の保護者延べ3名 子延べ3名 国籍内訳：中国・オーストラリア

実績では中国圏の方がここみ広場へ多く来場。日本での子育ての悩みを通訳を通して相談先の情報提供ができ、保健師とつながることができた。家庭ではほぼ話せない母国語を通訳や他の利用者と話せることで、親自身が楽しめ、子どもにも言葉を聞かせることができるよい機会となっているようだ。また、その場にいた日本人の親子にとっても、外国の子育てに興味をもち、多文化の交流がきている。

その他のひろばでは、平日開催では参加が難しいことや、外国籍の保護者への周知が課題となっており、母国語で書かれたチラシを作成するなどの工夫をして、まずはひろばを知ってもらうことに重点を置いた。



通訳と母国語での会話をを楽しむ
外国籍の保護者



絵本を母国語に訳し
ながらの読み聞かせ



中国語とタガログ語のチラシ

【長期休暇支援】

3つの各ひろばにて、春・夏・冬の長期休暇期間（小学校の長期休暇に合わせる）に、幼稚園児や小学生の親子の居場所として広場を利用できる長期休暇支援。

中区ここみ広場	合計44日開催	幼稚園児・小学生延べ34名
南区ここみのおうち	合計48日開催	幼稚園児・小学生延べ41名
浜北区ここみの森	合計35日開催	幼稚園児・小学生延べ65名

普段下の子を連れてよく広場を利用している家族の上の子（幼稚園・小学生）の来場が増え、小学生ボランティアを希望して来る子もいて、スタッフと一緒におもちゃの整理や片付けなどを積極的に行ってくれた。

また、0～2歳のお子さんと遊んだりお世話する姿もみられ、異年齢の交流ができた。

長期休暇支援開催前に小学生を対象としたボランティア講座を行った。

参加した小学生は異年齢の交流がスムーズにできるようになり、また小学生ボランティアと遊んで楽しかったという来場者が増加した。

異年齢の交流の場として、乳幼児を持つ母親も幼稚園児、小学生との関わりを通して今後の育児の参考になるという支援につながった。



異年齢の交流



ボランティアの息抜きに
アナログゲーム

3) 行政・他団体との協働・ボランティア

浜松市市民協働・地域政策課 学生ボランティア受入事業

「中高生を対象とした市民活動体験講座」

日時：2019年8月7日

今回で7回目となる学生ボランティアの受入事業。

参加者：中学生ボランティア3名

ここみ広場の取り組み、ひろばボランティアの心構えなどの講話のあと、赤ちゃんがよろこぶ簡単なおもちゃ作りをし、実際にひろばで親子とのふれあい体験を行った。

中高生が0～2歳児の親子にふれあう体験は、将来母となり父となる彼らにとって貴重な機会となった。



赤ちゃんを抱かせてもらえる貴重な体験

浜松市内の大学 実習受入

妊婦さんから0～2歳の赤ちゃんと親に実際に会い、話を聞くことができる実習。学生はスタッフと一緒に1日(半日)を過ごす。

- ・浜松医科大学大学院助産師養成コース助産学 実習5名受入
- ・浜松医科大学医学部看護学科公衆衛生看護 実習6名受入
- ・聖隷クリストファー大学看護学部母性看護 実習52名受入



実習中の浜松医大学生（右）と中学生ボランティアの交流

しずおか多胎ネット

しずおか多胎ネットとは、平成29年度（2017年度）から協働し、ひろばにて多胎のおしゃべり会を毎年継続して開催している。主な開催ひろばは、駐車場があり多胎家族が来場しやすい南区ここみのおうちと浜北区ここみの森。

これまでの多胎親子の来場累計実績

- ・ここみのおうち 平成29年度～令和元年度（2019年度）
実家庭数32組 延べ来場組数223組
- ・ここみの森 平成30年度10月～令和元年度
実家庭数15組 延べ来場組数74組

※累計数には多胎おしゃべり会（講座）以外でひろばに来場した多胎も含む。



右端がしずおか多胎ネット代表高山ゆき子さん
自身も双子を子育て中。
ひろばに来場した双子親子の話を親身になって聞いている。

どおんどの会・えほん文庫

【どおんどの会】

絵本の読み聞かせボランティアとして、長年継続してここみのひろばに来ていただいている。

毎年5回、各ひろばを巡ってえほんの読み聞かせと親子のふれあいあそびを伝えてくださっている。

毎回人気の講座で、たくさんの親子が交流している。

【えほん文庫】

毎年2回、ここみのおうちにて絵本の読み聞かせとわらべうたあそび、紙芝居など盛りだくさんの講座を行っている。

祖父母世代を対象にした読み聞かせでは、孫を連れた参加者とたのしく交流した。



3) 行政・他団体との協働・ボランティア

浜松市助産師会

南区のここみのおうちは、すこやか助産院（主宰：浜松市助産師会会長齋藤由美さん）をお借りして子育て支援ひろばを開催しており、産前から産後の切れ目のない子育て支援を協働で行っている。



助産師の齋藤由美さんを囲む妊婦さんや親子@ここみのおうち

ここみサポーター・ママボランティアの活動

ひろば利用者の親が子どもと一緒に自分たちのやりたいことを自分たちで企画運営し、周りの親子を巻き込んで活動する、ひろばから生まれたママボランティアグループ。ひろば内ではできない公園遊びや芋ほり等の活動を通して、親子のエンパワメントが引き出されている。活動に参加する親子は毎回いきいきと楽しんでいる。

活動には父親の参加もあり、子育て中でも自ら活躍できる場として意欲的に活動した。

2019年度のここみサポーター登録は8組。

15回開催。参加親子は延べ約205組

（2・3月はコロナのため中止）

主な活動内容

春：浜松市内のいろんな公園へお出かけ

夏：流しそうめん@浜松市青少年の家

秋：お芋掘りや公園あそび

冬：リサイクル交換会 クリスマス会



赤電でお出掛け♪美園中央公園

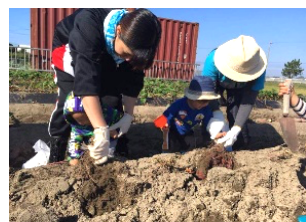


落ち葉遊び 青少年の家



リサイクル交換会

「捨てられないから、次の人に使ってほしい」をコンセプトに実施された子ども服の交換会。譲り合いの心が嬉しい企画。



お芋掘り 南区大石さんの畑



静岡文化芸術大学「創造の丘」

ここみサポーター・地域ボランティアの活動

地域の方やボランティアに興味のある方13人がボランティアサポーター登録。

2019年度は延べ20人のボランティアが参加。

主な活動内容

【手仕事の会】月1回、年10回開催（2・3月はコロナで中止）。

手芸好きの地域の方が、ひろばで使用するおもちゃを手作りしたり、背守り刺繍を来場者の親子と一緒に作成。

地域の方の趣味や特技を活かし、子育て中の親との交流や子どもを見守りながらの作業はお互いのリフレッシュの場ともなった。

【おにぎりカフェ】月2回、妊婦支援の日で開催。おにぎりカフェに参加した妊婦・親子のサポートや、お味噌汁作りを担当。

子育て中はゆっくり食事ができないことも多い親子をサポートし、一緒にわいわい食べることの幸せを感じた。

【大石さんのお米】特別栽培米（農薬、化学肥料5割減）の南区の米農家さん。おにぎりカフェに使うお米やさつまいも掘りなどにご協力いただいている。



手仕事の会に集まった地域ボランティアの皆さんと親子



大石さんのお米で炊いたごはんでおにぎりカフェ

4) ここみドゥーラ事業（はますくヘルパー事業）

産前と産後すぐの一番サポートが必要な時期に、訪問し家事・育児などの必要な支援を行う事業。親子が地域とつながるきっかけとなるよう地域の子育て支援ひろばなどの情報を伝え、親子が孤立しないよう働きかけている。

浜松市のはますくヘルパー事業の登録事業者としては、3年目となった。

また秋には第4期産前産後サポート基礎講座を開催し、その後実習を経てここみドゥーラとなる受講者もいた。現在登録しているここみドゥーラは10名となった。

新聞社の取材が入り、ここみドゥーラの訪問の様子や利用者の声が記事に大きく取り上げられ、産前産後のサポートの現状が広く周知された。

第4期 産前産後サポート基礎講座

日時：2019年9月12日・19日、10月17日・31日の4日間 全20時間

参加者：子育て支援者、主婦、元介護ヘルパー、医療関係者 4名

○産前産後のサポートとは？

- ・産後の不安な気持ちに寄り添う聞き手として母親をサポート
- ・母親をサポートする父親のサポート
- ・料理、洗濯、掃除などの日常の家事をサポート
- ・沐浴、抱っこ、おむつ替えなどの赤ちゃんのお世話や上の子の遊び相手などの育児をサポート
- ・病院への付き添い、買い物への同行、散歩、子育てひろばなどへのお出かけをサポート
- ・地域の子育て資源とつなぐサポート

○講座内容

- ・出産をめぐる社会環境と産前産後サポーターが必要とされる背景
- ・浜松市の子育て支援制度やその他の地域資源
- ・乳幼児のスキンシップの重要性
- ・支援者としての傾聴とコミュニケーション
- ・抱っことおんぶの実習
- ・新生児のお世話とよくある相談（沐浴など）
- ・調理実習
- ・産後サポートプランの立て方

など、多岐にわたる。



ここみドゥーラ（はますくヘルパー）利用者の声

里帰りをしなかったもので、掃除や料理まで手が回らず、サポートしてもらえて助かった。また家にこもりがちで他の人と話す機会が少なかったので気分転換にもなった。

サポートをして下さりつつ、私の相談にのってくださったり、子どもの目線で子どもと話をして下さるところに感動しました。

子育て支援ひろばの様子や、親子の様子も聞くことができ、でかける参考になりました。助けてくれる人がいると思うだけで心が楽になりました。ここみドゥーラさんに来ていただけた日は、余裕をもって子どもに接することができました。

産後、身も心も疲れているところをサポートしていただけたことがとても助かりました。家事以外にも、話し相手になっていただいたり、産後の身体のことや二人育児についてのアドバイスを作業しながら教えていただいたりしたことが良かったです。



5) ここみ学びLabo

講演会については、子育て中の親子や、その親子を支える子育て支援者、関係機関を対象に、さまざまな学びを企画。

2019年度も著名な講師を浜松へ呼び出すことができ、たくさんの学びを得た。

また学んだことをその場で終わらせることなく、日々の活動の中に取り込み継続している。今後もさらに発展させていく計画。

人材養成の講座については、長く続けている子育てサポーター養成講座が回を重ねるごとにブラッシュアップされてきており、広く一般の方が子育て支援を知るきっかけとなる講座として今後もさらに確立していく。

その他、講師依頼も増えた年であった。

【研修会】

「わが子や孫に贈ろう日本の文化～背守刺繍～」(午前の部)

「浜松版ネウボラを考える」(午後の部)

講師：棒田明子氏

NPO法人孫育て・ニッポン理事長・にっぽんネウボラネットワーク研究所副代表

日時：2019年7月3日 午前の部 10:00～12:00

午後の部 13:30～15:30

会場：午前の部 子育て支援ひろば「ここみのうち」

午後の部 浜松市民協働センター

参加者：午前の部 子育て・孫育て中の親・祖父母・地域の方 13名参加

午後の部 子育て支援者や行政、助産師、保健師、市議会議員ほか 22名参加

産後サポートや孫育てなどで活躍中の棒田明子氏を初めて浜松にお迎えし、浜松の子育て支援のこれからを考えるヒントを得た。

午前の部では、日本の伝統文化の背守り刺繍のワークショップを行った。

この講座をきっかけにして、その後定期的に子育て支援ひろばの中で講座を継続している。

(前述P11参照)

午後の部では、「妊産婦の現状を知らなければ、サポートできない。制度を知らなければ使えない。」という原点からスタートし、浜松の子育ての現状をさまざまなデータから分析し、見えてくるものを大変分かりやすく解説していただいた。

さらには、国の方向性にも目を向け、これからの日本の子育てがどうなっていくかにも注目した。また、産後のメンタルリスクは母親だけでなく、父親も高くなることに注目し、夫婦ともに孤独にならず、いかに地域社会の見守りやサポートが必要であるかを認識した。



背守り刺繍の材料



参加者の赤ちゃんをあやしながら刺繍を教える棒田さん



午後の部 午前とはまた違う棒田さんの熱意と情報量の多さに圧倒された。

5) ここみ学びLabo

【研修会】

「妊娠・出産・子育てが始まった！夫婦でつくるハッピーライフ」 (午前の部)

「これからの父親支援を考える～家族・働き方・社会を変える父親への子育て支援～」 (午後の部)

講師：小崎恭弘先生

大阪教育大学教育学部教員養成課程家政教育講座（保育学）准教授

日時：2019年10月14日 午前の部 10：00～12：00

午後の部 13：30～16：00

会場： あいホール浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター

参加者：午前の部 妊娠中の夫婦・就園前児のいる夫婦(託児つき) 18組30名（うち父親13名）参加

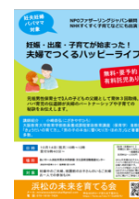
午後の部 子育て支援者、大学教員、助産師、保健師、保育士、市議会議員、企業ほか 58名参加

父親への子育て支援について最先端で研究されている小崎先生を浜松にお招きした。

最近では父親のひろば利用が増えており、子育てやワークライフバランス、パートナーシップに悩む父親の声も数多く聞かれるようになっていた。

小崎先生は、NPO法人ファザーリングジャパンの顧問もつとめ、ワークライフバランスについての講演も数多くされているため、是非とも子育て中の夫婦や子育て支援関係者に聞いてもらいたいと企画した。

午前の部は、夫婦対象であるため、子育ての先々の見通しを立てながら、夫婦のパートナーシップがいかに大切か、子育てはチームワークであることなどを、先生自身の体験にも基づいて軽快なトークで分かりやすく解説。終始笑いが起こり、“パパの通知簿”のワークをするなど、あっという間の2時間だった。



午後の部は、子育て支援の関係者対象で、これからの父親支援を考えた。

イクメンブームの裏に潜む父親の苦悩に注目しつつも、父親が親としての本来の力を発揮し、それが家庭内に及ぼす好影響を実現させるためには、単に父親個人の力量の問題ではなく、社会の課題であることを改めて認識。

そのために行う父親支援とは、以下の4つが達成できるよう様々な支援を工夫することが必要となる。

1. **父親のエンパワーメント**（子育てについての正しい知識や理解、価値観を得られるようにする）
2. **夫婦のパートナーシップ**（夫婦でともに子育てができるようにする）
3. **父親のワークライフバランス**（仕事、生活、家庭、地域との関わりを意識した生活者にする）
4. **父親のネットワーク**（父親自身が積極的に育児や家庭生活の主人公として暮らしていけるように、地域社会の環境に対して関わりがもてるような機会をつくる）

私たちはこれらを意識し、今後も継続して父親支援を実施することで、父親の変化を促し、父親が変化することで、社会システムによりよい変化をもたらしたいと考える。

○参加した子育て支援関係者の感想

・とても楽しい講座でした。今の社会が必要以上に自己責任主義で、助けを求めにくい中、子育てしている人たちの声を逃してはいけないんだと教えていただきました。（保健師）

・父親支援ということばの裏付けとなる社会の話が聞け、ぼんやりとしたイクメンという言葉の育児参加としてではない子育ての役割としての父親の理解につながった。（男性保育士）

・父親の意識は変わってきていることは肌で感じます。家族ぐるみで子育てしたい。しかし、上の世代、社会の変化が追い付かず苦しんだり、悩んだりしている姿を目にします。ファーストペンギンはどこにいるか？地域のキーパーソンを育てる意味での家庭支援について改めて考える機会をいただきました。（匿名）

5) ここみ学びLabo

【講演会】

「子どもの発達を育むあそび～乳幼児期の子どものからだを育むポイント～」

講師：伊藤信寿先生

聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部 作業療法学科教授

日時：2019年6月30日（日）13:00～15:00

会場：浜松市福祉交流センター

参加者：助産師・保健師・保育士・子育て支援員・子育て中の親など 45名

聖隷クリストファー大学の伊藤先生をお招きし、乳幼児の子どもの発達を作業療法の視点で大変分かりやすく解説していただいた。

子どもは真似ることで様々なことを学んでいる。真似るための感覚の発達が重要であることなどを、先生自身の育児体験話や豊富な写真や動画などを使い、受講者にもクイズを出すなどして、とても楽しく教えていただいた。

どの内容も大変興味深く、受講後のアンケートでは「成長・発達が何につながるのか分かってよかった」「体を動かし考える時間もあり、理解しやすかったです」などの感想をいただいた。



【人材養成】

子育てサポーター養成講座

子育て世代のよき理解者である子育てサポーターを地域に増やすために始まった子育てサポーター養成講座は回を重ね、これまでの累計受講者は68名となった。2019年度は第7・8期の2回開催した。

【子育てサポーター養成講座】

日時：第7期2019年6月16日・第8期2019年11月20日

参加者：子育て中の親、地域の相談員、放課後児童の支援員など 18名

講座では、浜松市における子育ての現状の把握、子育て支援とは何か、親子が育つ環境についてなどを学び、最後は自分にできる子育て世代へのサポートとは何かを探っていった。



“えんたくん”に自分にできることを書き込む参加者

子育て環境コーディネーター養成講座初級・中級

親子が育つ環境について学び、親子それぞれに合った環境や集団での子育て支援の場を適切にコーディネートできる人材を育てる子育て環境コーディネーター養成講座。

2019年度は、初級は第2期を開催。中級は初開催の第1期となった。

【子育て環境コーディネーター初級】

日時：2019年6月30日・7月7日 全2日

参加者：保育士・看護師・子育て支援員など 8名

講師：大隅和子（浜松の未来を育てる会代表/子育て環境アドバイザー）・小沢めぐみ（同会/子育て環境コーディネーター）



細田直哉先生の講義

【子育て環境コーディネーター中級】

日時：2019年10月20日・27日 全2日

参加者：保育士・子育て支援員 7名

講師：小林純代先生（公認心理士）・細田直哉先生（聖隷クリストファー大学社会福祉学部子ども教育福祉学科准教授）・大隅和子



図面を用いた配置ワーク

初級では、子育て支援ひろばの環境構成についての理論と実践を解説。

おもちゃの選定についての理論、理解を深めた。

中級では、小林純代先生による講義「保護者支援と自己理解」、細田直哉先生による講義「子どもが育つ環境」から、子育て環境をより深く学ぶことができた。

また、平面図を用いて実際に配置を考えるワークでは、受講者の実務に活かせるものとなった。

5) ここみ学びLabo

【講師・委員等派遣実績】

講師：大隅和子

浜松の未来を育てる会代表・子育て環境アドバイザー・
積み木遊びアドバイザー・教育カウンセラー・おもちゃコーディネーター



- ・「遊びで育つ力」志田・榛原地区通級指導教室
- ・「地域子育て支援研修」川崎市中原区保育総合支援課
- ・「子育てシンポジウム」カラフルブリッジイン掛川
- ・「子育て広場の環境づくり」愛知県私立幼稚園協会
- ・「居場所づくり」磐田市東協働センター、浜松市南区
- ・「子育て支援拠点中級研修」群馬県社会福祉協議会
- ・「子どもの発達と遊び」浜松市保育園、浜松市内保育園、子育て支援拠点
- ・「子育て支援員研修」浜松市子育て支援拠点

講師：大村美智代

浜松の未来を育てる会事務局長・アンガーマネジメントファシリテーター
育休後アドバイザー・ドゥーラ・タッチケアセラピスト



- ・浜松医科大学大学院助産師養成コース助産学特論 非常勤講師「子育て支援」
- ・「アンガーマネジメント」浜松市立曳馬小学校学校保健委員会
- ・「アンガーマネジメント」浜松市立上島小学校学校保健委員会
- ・「アンガーマネジメント」浜松市立曳馬中学校学校保健委員会
- ・「アンガーマネジメント」天竜協働センター
- ・「ここみのおしゃべりサロン～復職準備講座～」浜松こども館
- ・浜松市西区協議会委員(2020年3月まで)

講師：小沢めぐみ

子育て環境コーディネーター・おもちゃコーディネーター
ベビーウェアリングコンシェルジュ



- ・「子どもの発達とおもちゃ」森町子育て支援センター
- ・「親子にやさしいだっことおんぶ」引佐協働センター
- ・「0歳児ママのおしゃべりサロン 全3回」佐鳴台協働センター
- ・「ここみのおしゃべりサロン～親子にやさしいだっことおんぶ～」浜松こども館
- ・「ここみのおしゃべりサロン～赤ちゃんがよろこぶ手作りおもちゃ～」浜松こども館
- ・「乳幼児期に大切な3つのこと」浜松市立南保育園
- ・「親子にやさしいだっことおんぶ」小豆餅ゆすらうめこども園



浜松の未来を育てる会

☎430-0917

静岡県浜松市中区常盤町140-8

お問い合わせ

Mail: miraiwosodaterukai@gmail.com

Tel&Fax: 053-548-4305 (am9:30～pm3:00)

事務局直通：070-1616-7424

HP: <https://kokomihiroba.jimdo.com/>

FB: <https://www.facebook.com/kokomi.Hamamatsu/>

Twitter: https://twitter.com/kokomi_hiroba

LINE公式アカウント: @kokomi

【発達支援・相談支援】

ひろば名	発達相談日の相談件数	日頃のひろば内での相談件数 (出張ひろば含む)	内) 専門機関との連携件数	相談合計
ここみ広場	31	469	12	500
ここみのおうち	65	496	28	561
ここみの森	53	514	2	567

発達相談日は各ひろば月3～4回、年間計40回。
専門の発達相談員、臨床心理士による相談が行われている。

「日頃のひろば内での相談」の中から、必要に応じて「発達相談日」を紹介し専門員に適切につなげる体制づくりを心掛けている。

また、発達相談に繋がった親子のその後の様子は、日頃のひろばの中で経過を見守り相談にのっている。

ひろばのスタッフは常に利用者の言葉を「傾聴」しながら、表情や様子など言葉以外の情報もキャッチしている。

周りにいる他の利用者と相談者をつなぐことでオープンな関係を築きながら、親同士で解決の糸口がみつけれられるよう、親の自己決定力や子どもを育てる力を育む支援を行っている。

日頃のひろば内での相談内容は多岐にわたっており（図1）日々さまざまな育児相談がなされている。

専門の相談員に繋ぐほどでもない「日々の生活の中でのちょっとした悩み」も多く見受けられる。

このちょっとした些細な悩みを、スタッフへ自ら相談ができ、同じ子育て中の他の親同士で早めに解消できることで、大きな悩みに発展する前に自己解決力を高め「予防的支援」にもなっている。

ここみのひろばでは、このような相談のしやすい環境、本音を言い出しやすい雰囲気作りを常に整えている。



華やかな壁面装飾はなく、自宅に居るような落ち着いたインテリアと色味を抑えた室内。スタッフもエプロンをせず、だれが支援者か利用者かわからないほど自然に入り混じって、悩みや相談を日々共有している。

図1 日頃のひろば内での相談内容

